

事業群評価調書(令和3年度実施)

基本戦略名	1-3 長崎県の未来を創るこども、郷土を愛する人を育てる	事業群主管所属・課(室)長名	事業群②:教育庁 児童生徒支援課 事業群③:教育庁 高校教育課	安永 光利 狩野 博臣
施策名	2 郷土を愛し、地域を支える心豊かな人材の育成	事業群関係課(室)	義務教育課	
事業群名	② 豊かな道徳性を育む道徳教育の推進 ③ 社会の様々な課題を主体的に判断できる力や政治に参画する態度を育てる教育の推進	令和2年度事業費(千円)	※下記「2. 令和2年度取組実績」の事業費(R2実績)の合計額	0 3,089

1. 計画等概要

<p>(長崎県総合計画チェンジ&チャレンジ2025 本文)</p> <p>②道徳性を養うため、「考え、議論する道徳」への転換を図るとともに、いのちを大切にできる心や思いやりの心をもつ、規範意識の高い児童生徒の育成を学校・家庭・地域が一体となって推進します。</p> <p>③令和4年度から成年年齢が18歳に引き下げられることに伴い、自分が所属する集団である学校や地域社会、広く国家、国際社会を構成する主体としての意識と自覚を高め、社会の様々な課題を自分の問題として捉え、自ら考え、判断し、異なる年齢や異なる社会の人々と協働して行動する力を培う教育を推進します。</p>	<p>(取組項目)</p> <p>i)「長崎っ子の心を見つめる教育週間※1」などを通した、いのちを大切にできる心や他者を思いやる心の育成と、あいさつや礼儀等の社会性や規範意識などの向上を図る取組の強化(事業群②)</p> <p>ii)小中高12年間を見通した子どもの発達の段階に即した道徳教育の推進(事業群②)</p> <p>iii)政治的教養教育を通し、主体的に社会の形成に参画しようとする態度を育成(事業群③)</p> <p>iv)地域が抱える課題を発見し、それを考え行動する探究的な学びを推進(事業群③)</p> <p>v)SDGsの理念に基づき、持続可能な社会づくりの担い手を育成(事業群③)</p> <p>※1 長崎っ子の心を見つめる教育週間:学校、保護者、地域住民が連携して、「心豊かな長崎っ子」を育成するため、県内全ての公立学校で教育活動を公開し、交流を図る取組</p>
--	--

事業群	指標		基準年	R3	R4	R5	R6	R7	最終目標(年度)	(進捗状況の分析)
	②「長崎っ子の心を見つめる教育週間」における情報モラル教育を通して、他者と共によりよく生きるための道徳性を育てている学校の割合		目標値①	/	89%	90%	91%	92%	93%	
		実績値②	88% (R元)	/	/	/	/	/	進捗状況	
		達成率②/①	/	/	/	/	/	/	—	
事業群	指標		基準年	R3	R4	R5	R6	R7	最終目標(年度)	(進捗状況の分析)
	③地域課題の解決や政治、選挙に関心があり、主体的に社会参画を目指す生徒の割合		目標値①	/	60.0%	60.5%	61.0%	61.5%	62.0%	
		実績値②	58.9% (R元)	/	/	/	/	/	進捗状況	
		達成率②/①	/	/	/	/	/	/	—	

2. 令和2年度取組実績(令和3年度新規・補正事業は参考記載)

取組項目	中核事業	事業番号	事務事業名	事業費(単位:千円)			事業概要 令和2年度事業の実施状況 (令和3年度新規・補正事業は事業内容)	指標(上段:活動指標、下段:成果指標)			令和2年度事業の成果等	
				R元実績	うち 一般財源	人件費 (参考)		主な指標	R元目標	R元実績		達成率
				R2実績					R2目標	R2実績		
				R3計画	R3目標	R3実績						
事業実施の根拠法令条項				事業実施の根拠法令条項			事業対象					
事業期間				法令による 事業実施の 義務付け	県の裁量 の余地が ない事業	他の評価 対象事業 (公共、研究等)						
所管課(室)名												
取組項目 ii	○	1	道徳教育の抜本的改善・充実事業	1,905	0	1,591	新型コロナウイルス感染症の影響により、文部科学省の委託事業である道徳教育の抜本的改善・充実事業が中止となった。しかしながら、県内教職員向けの教育課程説明会、県内4つの研究指定校による研究発表会、各学校の道徳教育担当教員による文部科学省オンライン研修会の受講により、道徳教育の推進に努めた。	【活動指標】	160	219	136%	●事業の成果 ・新型コロナウイルス感染症の影響により、道徳教育の抜本的改善・充実事業は中止となったが、教育課程説明会や指定校による研究発表会の開催、文部科学省のオンライン研修会受講等により、道徳教育の趣旨等について周知することができた。
				0	0	1,565		【活動指標】	160	0	0%	
				3,776	0	1,571		【活動指標】	200			
			—			【成果指標】		3.7	3.7	100%		
H27- 義務教育課				—	—	—	公立小中学校教職員	【成果指標】	3.7	0	0%	
取組項目 iv	○	2	長崎発 未来の創り手育成プラン	44,541	21,165	10,340	「ふるさとの未来を担う高校生育成事業」では、県立高校6校を研究指定し、専門家や地元市町の協力を得ながら、地域活性化に向けた活動や研究発表会を行った。また、「地域魅力化型高等学校支援事業」では地域と学校の協働によるコンソーシアムを構築した。さらに、「ふるさと教育支援事業」では進学希望者が多い普通科高校4校で県内企業説明会を行った。	【活動指標】	—	—	—	●事業の成果 ・地元の行政機関や事業所などと連携し、地域活性化に向けた取り組みを行ったことで、多くの生徒達が、将来ふるさとの発展に貢献したいという意識が高まった。
				3,089	1,413	10,171		【活動指標】	—	—	—	
				9,595	3,660	10,209		【活動指標】	20			
			—			【成果指標】		—	—	—		
H30-R5				—	—	—	高校生	【成果指標】	85			
高校教育課				—	—	—	高校生	【成果指標】	85			

3. 実績の検証及び解決すべき課題と解決に向けた方向性

i	「長崎っ子の心を見つめる教育週間」などを通した、いのちを大切にすることや他者を思いやる心の育成と、あいさつや礼儀等の社会性や規範意識などの向上を図る取組の強化(事業群②)	<p>●実績の検証及び解決すべき課題</p> <p>「長崎っ子の心を見つめる教育週間」において、情報モラル教育教材「SNSノート・ながさき」を活用し情報モラルについての理解を重点目標に設定したことで、各学校で主体的な取組が進められ、相手の立場に立った言動などを大切にすることができた。今後、GIGAスクール構想による1人1台タブレット端末の整備が進められることから、情報モラル教育のより一層の推進が課題である。</p>	<p>●課題解決に向けた方向性</p> <p>今後、「長崎っ子の心を見つめる教育週間」において、情報モラル教育教材「SNSノート・ながさき」を活用した情報モラルについての理解を継続して重点目標に設定することで、引き続き、各学校における主体的な取組を推進し、命を大切にすることや思いやりの心の育成を図っていく。</p>
ii	小中高12年間を見通した子どもの発達の段階に即した道徳教育の推進(事業群②)	<p>●実績の検証及び解決すべき課題</p> <p>令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により、文部科学省からの委託事業である道徳教育の抜本的改善・充実に係る支援事業が中止となったが、市町立学校向けの説明会を開催するなどの取組を行い、道徳教育の推進を図った。教員の研修や資料提供を通して道徳教育の更なる充実を図る必要がある。</p>	<p>●課題解決に向けた方向性</p> <p>道徳教育パワーアップ研究協議会や研修会を開催するほか、文部科学省主催によるオンライン研修会への教職員の参加や道徳教育に関するリーフレットを作成及び配付することで、道徳教育の更なる推進に努める。</p>
iii	政治的教養教育を通し、主体的に社会の形成に参画しようとする態度を育成(事業群③)	<p>●実績の検証及び解決すべき課題</p> <p>政治的教養教育を通じて目指すべき姿や育成すべき資質・能力が生徒、保護者、教職員の間に共有されつつあるが、政治的教養教育が政治や選挙に関心を持っている生徒を育成することだけに捉えられている点が課題である。一方、総合的な探究の時間を活用し、自分の暮らす地域の課題を調べ、解決法を探る課題解決型の学習やふるさと教育等を通じて社会と接することで、当事者意識を高め、社会参画の意識を高める生徒が着実に育成されている。</p>	<p>●課題解決に向けた方向性</p> <p>各県立高校で作成している政治的教養教育の年間計画とふるさと教育の年間計画を統合させ、政治的教養教育を通じて目指すべき姿を生徒や保護者等に対して幅広く周知を図る。</p>

iv 地域が抱える課題を発見し、それを考え行動する探究的な学びを推進(事業群③) ●実績の検証及び解決すべき課題 「ふるさとの未来を担う高校生育成事業」(H30～R2)により、高校生の地域課題に対する関心や探究スキルは向上している。一方で、生徒の意識が郷土理解にとどまり、地域活性化への意欲を十分に引き出せていない。	●課題解決に向けた方向性 小中学校のふるさと教育から一歩進んだSDGsの視点での課題発見・解決能力の育成、教師主導から生徒自らが創り上げる探究学習への転換、生徒一人ひとりの進路学習との連動性の充実を図る。
v SDGsの理念に基づき、持続可能な社会づくりの担い手を育成(事業群③) ●実績の検証及び解決すべき課題 「ふるさとの未来を担う高校生育成事業」(H30～R2)により、高校生の地域課題に対する関心や探究スキルは向上している。また、令和3年度までにすべての県立高校でふるさと教育の体系図と実施計画を策定する。一方で小中学校のふるさと教育から一歩進んだSDGsの視点からの課題発見・解決能力の育成、教師主導から生徒自らが創り上げる探究学習への転換に課題がある。	●課題解決に向けた方向性 「ながさき未来デザイン高校生SDGs推進事業」とおして、SDGsの視点から地域の課題を発見・解決し、主体的に行動することのできる地域リーダーの育成及び長崎の未来をデザインする起業家精神を持つ人材を育成する。

4. 令和3年度見直し内容及び令和4年度実施に向けた方向性

取組項目	中核事業	事業番号	令和3年度事業の実施にあたり見直した内容		令和4年度事業の実施に向けた方向性		
			事務事業名	※令和3年度の新たな取組は「R3新規」等と、見直しが無い場合は「―」と記載	事業構築の視点	見直しの方向	見直し区分
			事業期間 所管課(室)名				
取組項目 ii	○	1	道徳教育の抜本的改善・充実事業 H27- 義務教育課	道徳教育パワーアップ研究協議会については、夏季休業中に開催するとともに、会場を増やすことで、市町立学校の管理職員や道徳教育推進教師等が、より参加しやすくなるようにする。 道徳教育に関するリーフレットを作成及び配付を行うことで、小中高12年間を見通し、子どもの発達の段階に即した道徳教育の推進を図る。	②	道徳教育の充実を図るため、引き続き道徳教育パワーアップ研究協議会を実施し、多くの教職員が参加しやすくなるよう、日程等を工夫していく。また、道徳教育及び道徳科の授業の充実を図るため、リーフレットを活用し、協議会内容をより実践的な内容にしていく。	改善
取組項目 iv v	○	2	長崎発 未来の創り手育成プラン H30-R5 高校教育課	令和3年度からは「ながさき未来デザイン高校生SDGs推進事業」において、希望生徒20名程度を対象にしたアントレプレナーシップゼミや県内全体でアイデアコンテストを実施し、本県の未来を担う人材育成を図る。	②	「ふるさと教育支援事業」「ながさき未来人材デザイン高校生SDGs推進事業」を引き続き実施し、取組の内容や成果の県全体への普及を図る。	改善

注:「2. 令和2年度取組実績」に記載している事業のうち、令和2年度終了事業、100%国庫事業などで県の裁量の余地がない事業、公共事業評価対象事業、研究事業評価対象事業、指定管理者制度導入施設評価対象事業については、記載対象外としています。

【事業構築の視点】

- ① 視点① 事業群としての成果目標に対し、特に効果が高い事業の見極め、事業の選択と集中ができていないか。
- ② 視点② 指標の進捗状況に応じて、その要因分析及びさらに高い効果を出すための工夫、目標に近づけるための工夫を検討・実施できているか。
- ③ 視点③ 人員・予算を最大限効果的に活用するための事務・事業の廃止・見直しができているか。
- ④ 視点④ 政策間連携により事業効果が高められないか。事業群としてリーダーの明確化、関係課の役割分担・協力関係の整理ができているか。
- ⑤ 視点⑤ 県と市町の役割分担・協力関係の整理・認識共有ができているか。
- ⑥ 視点⑥ 県と民間の役割分担・協力関係の整理・認識共有ができているか。
- ⑦ 視点⑦ 戦略的に関係者の行動を引き出せているか。
- ⑧ 視点⑧ 国制度等の最大限の活用が図られているか。国へ政策提案(制度改正要望)する必要はないか。
- ⑨ 視点⑨ 経済情勢等、環境の変化に対応した効果的・適切な見直しとなっているか。
- ⑩ その他の視点